



園だより

11月号
2023年11月1日発行
古志ひまわり保育園
TEL 23-1504 FAX23-1505
koshi@h-himawari.net

朝晩冷え込むようになり、秋の深まりを感じる頃となりました。先月は運動会に参加していただき、ありがとうございました。子どもたちへの声援や準備等のお手伝いで力をかしていただき、ありがとうございました。

今月は保護者会主催のレクリエーション、どんぐり祭りを開催します。役員の方、保護者の皆さんにも前日・当日のお手伝いのご協力をよろしくお願い致します。



11月生まれのお友だち

つぼみ組

つくし組

れんげ組

すみれ組

こずもす組

さくら組

11月11日
11月11日

島根保育実践交流会主催 講演会に参加してきました!!

講師の紹介 ダニー・ネフセタイ氏

イスラエル出身。イスラエルの徴兵制により、自身も18歳から3年間の空軍の兵役経験を持つ。現在は、埼玉在住で木工作家となり、平和・脱原発をテーマに全国各地で講演会を行っている。

昭和20年(1945年)に第二次世界大戦が終結し、2023年で終戦78年を迎える日本。しかし、世界に目を向けてみると、侵略や戦争が今この瞬間にも続いており、軍人だけでなく、民間人の犠牲者も多くあります。

2022年のロシアのウクライナ侵略、そしてイスラエルのガザ地区への攻撃も連日のように報道をされており、ガザ病院爆発では一晩で500人超が死亡という惨事となりました。

世界で唯一、原子爆弾を投下され、戦争や核兵器の恐ろしさを伝えていくべきであろう日本でさえも、過去最高(7兆7千億円)の防衛費を税金によって、投じようとしています。

戦争の犠牲者は、亡くなった人や遺族だけでなく、軍人も含まれます。2019年の調査で、イスラエル軍人の年間死亡者のうち、PTSD(心的外傷後ストレス障害)により、45%が自殺をしていることが分かっています。

世界中での戦争によって誰もが傷ついたはずなのに、武力行使は無くなることはありません。ダニーさんは『人間は、過去の戦争の理由と歴史を学んできたはずなのに、それを未来に繋ぐことはない。平和をおとぎ話としか思わない次の世代が誕生してしまう。』と話されました。

「対話で解決をしよう」と子どもたちには指導をするのに、どうして大人は対話をせず、戦争で解決をしようとするのはなぜでしょう?この質問をされた時に大人は何と答えますか?

この質問を子どもの前に立つ私たち大人が恐れるのではなく、このことに疑問を持ち、質問ができる子どもたちを育てていくことが大切です。人権とは誰もが幸せに生きる権利です。

未来を生きる子どもたちが、疑問に思ったことを発信することができ、その思いが尊重される世の中を作っていくことが大切です。戦争や原発、人権などに大人が関心を持ち、色々な情報の中から自分で考え、物事の本質を見抜こうとする努力が必要だとダニーさんは語られました。

参考文献:「国のために死ぬことは素晴らしい?」

イスラエルからきたユダヤ人家具作家の平和論 ダニー・ネフセタイ著

<11月>

日	曜日	行	事
1	水	安全点検	
2	木	サンマ焼き	
3	金		
4	土		
5	日		
6	月	役員会18時~	
7	火		
8	水		
9	木	長浜小就学時検診	
10	金	さくら組キャンプ	
11	土	保護者会レクリエーション	
12	日		
13	月		
14	火	合同リズム	
15	水	身体測定	
16	木	塩冶小就学時検診	
17	金		
18	土		
19	日		
20	月	避難訓練	アルミ缶回収
21	火	弁当の日	さくら組玉峰山登山
22	水		
23	木		
24	金	誕生会	神西小就学時検診
25	土	どんぐり祭り前日準備	
26	日	どんぐり祭り	
27	月	シールカメラート16時~(さくら組)	
28	火		
29	水	湖陵小就学時検診	
30	木	つくし組食事公開	神戸川・みなみ・北陽小就学時検診



掲示板

- ① 25日(土)どんぐり祭りの前日準備です。家庭でお子さんの保育が可能な方は、ご協力をよろしくお願い致します。
- ② 30日(木)つくし組食事公開日です。
- ③年末、年始の保育について
12月29日(金)が保育納め(弁当の日)です。
新年は1月5日(金)が保育始めです。(通常保育)

子育てで一番大切なことは、子どもの能力を育てることではありません。能力を育てる教育と違って、子育てとは子どもの心を育てることであり、そこにこそメインテーマがあります。心を育てるということは関係を育てることです。そのためには、さまざまな人間関係を経験しトラブルを乗り越えることが不可欠です。その経験を通して初めて子どもは人の身考える知恵を身につけることができるからです。

~親子の絆を深め合う道程~
著: 広木克行 より